NO. 2022・69 号
発行日：2022 年 6 月 1 日

検査のパレット

今回は、甲状腺の病気に関連する超音波検査（画像診断）についてお話しします。
前回お話したように甲状腺の主な病気には、甲状腺機能中毒（亢進）症と甲状腺機能低下症、甲状腺腫瘍があります。いずれにおいても男性より女性に多い病気です。

■甲状腺機能中毒（亢進）症
甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることで全身に様々な症状が起きる病気のことをいいます。代表的なものにバセドウ病があります。バセドウ病の症状としては血圧の上昇や発汗、ほてりなどがあります。また代謝が上がることから体重の減少も現れることがあります。
超音波検査では、甲状腺は大きく腫れて少し黒っぽく写ります。また、甲状腺内部の血流が増加するので、血液の流れを色づけする画像をみるとカラフルに見えます。

■甲状腺機能低下症
甲状腺の働きが低下してホルモンの分泌量が通常よりも少なくなる病気のことをいいます。代表的なものに慢性的な炎症によって甲状腺組織が壊されていく橋本病（慢性甲状腺炎）があります。症状としては疲労感、むくみ、悪寒、便秘、体重増加や脱毛などが現れます。
超音波検査では、甲状腺が大きく腫れて黒っぽく写るのはバセドウ病と同じですが、甲状腺表面の凸凹が目立ち、内部は粗く写ります。

■甲状腺腫瘍
ほとんどの場合、良性の腫瘍ですが、まれに悪性（がん）があります。良性の物では腺腫様甲状腺腫が最も多く認められます。悪性にはおおまかに 4 つの代表的な分類があり、その 90%以上が乳頭癌と言われるものです。
超音波検査では、良性と悪性の腫瘍それぞれに特徴があります。良性の腫瘍では腫瘍の形が整っていて、境界もはっきりしています。悪性の腫瘍では腫瘤の形がいびつで、境界もぼやけて見えます。また、悪性の腫瘍は黒く写り内部に石灰化とよばれる白い部分があることが多いです。超音波検査だけで判断はできないので組織を採取して判断します。

甲状腺の超音波検査は食事をしていても検査ができ、痛みを伴わない検査です。ぜひ一度検査を受けてみて下さい。

参考文献：・疾患別検査ガイド 甲状腺疾患 2016
・甲状腺超音波診断ガイドライン（改訂第 3 版）

文責 北 沙織　監修 永田 拓生